

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	梅北 直昭
主な担当科目	スコアリーディング①,スコアリーディングⅡ,ポピュラー作曲・編曲法④,ミュージックセオリー(中級),鍵盤ソルフェージュ②,作曲・編曲法Ⅰ,聴音・視唱ソルフェージュ①,実技グループレッスン[作曲Ⅱ②]
シラバス	ここをクリック(本学ポータルサイトトップページが表示されます。) ※画面下「シラバス」>「シラバスを検索するにはこちらをクリックしてください。」をクリック
2023年の 教育目標・授業に 臨む姿勢	学生の学修意欲を引き出し、彼らが必要とするものや不足している部分を適切に把握し、タイミング良く学びの機会を提供することが大切。同時に、教員は自身の質を向上させるために、学生と共に学び続ける意識を持つべきだと思う。学修のプロセスは相互に影響し合い、教育の質の向上に繋がると考える。
2023年の教育に関 する自己評価	学生の力量を的確に評価し、成果を引き出せるような授業を心がけ展開した。多様な学生が在学している中、個々の学生の人間性を観察し、夢や目標に合わせた指針を提供するよう心がけた。学修においては努力の重要性を理解させるとともに、その努力が将来の成功につながることを示した。今後も学生のポテンシャルを引き出し、どのようにしたら夢や目標が達成できるかを適切に示していきたい。
2023年のFD活動 に関する自己評価	コロナ禍を経て、ICTやオンライン教育の有効性を見極め、これらを積極的に活用・開発しながら、柔軟かつ合理的な授業展開を行った。留学生の増加や学修環境の多様化を考慮し、更なる学びの向上を促進する、新たな提案や行動を行なっていきたい。
授業改善のために 取り入れた研修内容	多様な学生に対し、学生たちと同じ視点に立ち、彼らが求めているものは何かということを適切に見抜くことから始めた。時代が必要とするものに敏感に対応し、本質を見抜き、古いものと新しいもののバランスを考えることが不可欠である。

2023 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2057 教員名:梅北 直昭

1)アンケート結果に対する所見

学生アンケートの結果、多くの学生が授業に対して前向きな評価を示したものの、いくつかの改善点が指摘された。レポートが多すぎるとの意見もあり、シラバスへの明記も必要であると考えられる。ソルフェージュや作曲の授業では、実践的な演習の強化、グループワークや個別指導の際の効率化など、検討する必要があると感じた。日々の積み重ねの重要性を伝え、課題などを完成させるための手順をよりわかりやすく教示しなければならないと感じている。

2)要望への対応・改善方策

レポートの量を授業の目標に見合う適切な範囲に調整することと、シラバスへの記載内容の精査が必要だと考えられる。また、ソルフェージュや作曲の授業では、実践的な演習を増やし、学生に対して課題の目的や進行手順をより明確に示すことで、授業中の効率を上げることが期待できる。指導の際にはフィードバックを迅速に行う体制を整え、学生が自分の進捗を把握しやすい環境を提供し、学生が迷わず取り組める環境を整えることが重要だと考えている。

3)今後の課題

多様な背景を持つ学生や留学生が増え、教員も学びを継続しなければならない。異なる文化的背景を持つ学生が集まる中で、学生それぞれの視点を尊重した授業展開を行うことが重要である。留学生には、言語の壁を乗り越えるためのサポートや、理解しやすい教材を提供する必要がある。また、コラボレーションやグループワークを通じて、学生同士の交流を促進し、異なる視点から学ぶ機会を増やすことも大切である。これらの取り組みを通じて、より多様性に富んだ学びの場の提供を目指していく。

以 上